

みやぎ脱原発・風の会

— 2020年活動のまとめと方針 —

〈内容〉

- 1) 2020年風の会の活動報告・会計報告
- 2) 2021年風の会の活動方針について

資料

2020年 県内の主な動き

2021年5月

発行●みやぎ脱原発・風の会

〈連絡先〉〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-1-3

仙台市市民活動サポートセンター内 LC No. 76

電話&FAX 022-356-7092 (須田)

<http://miyagi-kazenokai.com/>

《郵便振替口座》 02220-3-49486

会費●3000円 賛同会費●1000円/年

※コロナ禍のため、毎年2月頃に開催していた「風の会・会員のつどい」を延期し、開催を模索しましたが、見通しが立ちません。そこで、2020年の活動等をまとめ、会員・『鳴り砂』読者の皆さまに報告することにいたしました。よろしくお願いいたします。(事務局)

2020年 風の会 活動報告

(2020年活動方針に照らして)

【2020年の活動方針】女川原発2号機の「規制委員会の『合格』→2020年後半工事完了・再稼働」の動きをにらみ、再稼働を止めるための運動を作り上げる。

<総評> 2020年は、新型コロナウイルスにも翻弄されながらも、村井知事による、県民の総意なき拙速な「女川2号機の再稼働合意」に対し、仲間とともに闘ってきた。

残念ながら知事の「同意」表明は阻止できなかったが、県内7カ所で行われた住民説明会(県主催)、9月の集会や11月のスタンディングに見られるように、再稼働反対の声を作り出し、可視化することができたのではないかな。

- ① 2月県議会での再上程・審議が決まった「県民投票条例」の可決を実現させる。
→2.26集会を脱原発県議の会などとともに開催したが、条例案自体は通すことができなかった。また、秋の請願をめぐる県議会での審議や、市町村長会議での討論では、村井知事が狙った「大多数の賛同」は得られず、知事の「先走り・反民主主義的姿勢」が目立つ結果になった。
- ② 「金デモ」さらに「放射能汚染廃棄物への取り組み」をはじめ、各種の脱原発・放射能汚染廃棄物処分問題の企画を支え、また県内外の人的なつながりを広げていく。
→ 「脱原発みやぎ金曜デモ」は、コロナのため断続的に実施・中止を繰り返すことにはなったが、コールを録音したり、ソーシャルデスタンスを保ったり等の創意工夫で、30人位の参加を維持して実施してきた。
阪上武さんの学習会の実現の他、「幻」の山崎久隆さんの講演企画や、「再稼働阻止全国ネットワーク」沼倉さんとの交流、「アジェンダ」など県外メディアへの投稿などで、県外の方とのつながりをつくってきた。
- ③ 女川・石巻、さらに30km圏内での取り組み(避難計画問題など)に注目し、阿部美紀子さん始め現地での活動・取組みを支える。
→「小泉純一郎氏講演会」や「女川から未来をひらく夏の文化祭」は中止になり残念。避難計画の問題を訴えるチラシを「女川から未来を考える会」のMさんが考案し、町内で配布。
- ④ 「福島を忘れない」ことを意識した取組を行う。
→事務局のHさんやSさんが、福島での「子ども脱被ばく裁判」を傍聴、また、仙台高裁での生業裁判の報告集会にSuさんが参加するなど取組みを行ってきた。また、仙台原子力問題研究グループIさんが随時、福島事故の問題を取り上げた原稿を出し続けている。
- ⑤ 『鳴り砂』の定期発行やHPでの発信を通じ、情報を発信しつづけていく。
→年6回の定期発行の他、2月には臨時発行も。また、「別冊」や「付録」で、様々な情報を送付するとともに、HPにも掲載。(新会員から過去10年分の『鳴り砂』のリクエストもあった)
- ⑥ 公開学習会を今年も2回は開く。
→コロナ禍により、6月の山崎久隆さんの公開学習会は中止となったが、12月には阪上武さんを招き、「避難計画」の問題に焦点をあてた公開学習会を実施し、約40人が参加した。

⑦ 再生可能エネルギーを取り組んでいる人たちとの交流や、「若い」人との交流も実現したい。
 →気候変動に取り組む若者の団体「FFF仙台」が、金デモなどに参加するという動きがあった。今後、国が進めようとする「脱炭素」が「原発推進」に結びつかないように、工夫した取組みが必要になる。

風の会 2020 年会計報告

(2020 年 1 月 1 日～12 月 31 日)

●繰越金		644,184 円 (前年 649,265 円)	
●収入	会費	255,360 円 (68 名) (前年 270,000 円 73 名)	
	賛同会費	44,000 円 (35 名) (前年 48,000 円 38 名)	
	カンパ	196,560 円 (2 名) (前年 11,240 円 4 名)	
	学習会カンパ	16,500 円 (前年 47,400 円)	
	その他	4,800 円 (前年 53,134 円)	
	合計	517,220 円 (前年 429,774 円)	
●支出	印刷費	17,630 円 (前年 24,764 円)	
	用紙代	41,962 円 (前年 31,843 円)	
	通信費	177,790 円 (前年 163,764 円)	
	活動費	182,250 円 (前年 135,180 円)	
	会場費	35,560 円 (前年 35,630 円)	
	ロッカー代	15,720 円 (前年 15,720 円)	
	コピー代	5,570 円 (前年 11,030 円)	
	その他	20,038 円 (前年 16,924 円)	
	合計	496,520 円 (前年 434,855 円)	
●残金・繰越金		664,884 円	2021 年へ

【参考】主な活動費	賛同金等	77,000 円
	学習会講師謝礼等	39,250 円
	風の会HP更新料	66,000 円

2021 年 1 月

会計 須田 剛

会計監査 宇根岡 實

2021年 風の会 活動方針（案）

◎「知事同意」後の、女川原発2号機再稼働を止めるための運動をどのように作り出していくのか、2022年度内といわれる「安全対策工事」終了をにらんだ取組みが求められる。

- ① 「さようなら原発みやぎ実行委員会」による取組みに積極的に関わり、県内の団結を高め、「脱原発みやぎ金曜デモ」やチラシ配布など県内世論作りに努める。
* コロナ禍もあり、なかなか動きにくい状況ではあるが、昨年までに培った県内勢力の団結を維持し、態勢作りに努力する。金曜デモやチラシ配布、スタンディングなど目に見える取組みも重要。
- ② 2021.4.18 シンポジウムなどの成果を受け、安全性の問題を東北電力に突きつけるなど焦点にしていく。
* 規制委員会が「合格」をだし、また東北電力は「安全性は格段に高まった」としているが、それでも残る女川原発の問題点をあぶりだし、訴えていく。
- ③ 県内にとどまらず、また県外とも人的なつながりを広げていく。
* 女川2号機の再稼働が日程に上るなかで、全国的にも注目が集まりつつある。そうした全国の力を生かすためにも、つながりを大事にしていきたい。
- ④ 女川・石巻、さらに30km圏内での取り組み（避難計画問題など）に注目し、阿部美紀子さん始め現地での活動・取組みを支える。
* 石巻で裁判が準備されているが、こうした動きや、また女川現地での取組みに積極的に関わる。
- ⑤ 「福島を忘れない」ことを意識した取組を行う。
* 福島事故による被害の賠償を求める仙台高裁での裁判が目白押しなので、情報を発信するなど、可能な限り関わる。
- ⑥ 『鳴り砂』の定期発行やHPでの発信を通じ、情報を発信しつづけていく。
* これまでの成果を踏まえ、さらに「読まれる」媒体を目指していく。HPもまだまだ改善の余地有り。
- ⑦ 公開学習会を1回は開く。
* この6月までは難しいかもしれないが、今年中に1回は行う。
- ⑧ 再生可能エネルギーを取り組んでいる人たちとの交流や、「若い」人との交流も実現したい。
* ひろく「エネルギー問題」あるいは「地域経済問題」として、単なる「脱原発」にとどまらず視野を広げていきたい。また、「次世代」をつくる姿勢を維持したい。

【1月】

- 6日(月) 地域新電力会社「かみでん里山公社」、加美町内の家庭や小口の店舗・事業所への電力供給を開始。
- 8日(水) 女川原発の避難計画を考える会、内閣府に、石巻市の避難計画の実効性に関し実質的な審査を促す内容の質問書を、昨年末に郵送で提出と発表。16日、具体的内容のない回答。
- 10日(金) 第356回「金曜デモ」、元鍛冶丁公園から40名の市民が参加。〈2/28以降、新型コロナウイルス肺炎(COVID-19)の感染蔓延が懸念されるため中止に〉6/12第363回、無事再開。「シュプレヒコール」を行なわない、録音したメッセージを流す、距離をとる、マスク着用等の感染症対策を実施。〈コロナ禍で9月18日以降お休み〉10/2第377回、再開～12/11第387回「金曜デモ」。〈以降、新型コロナウイルス感染症の拡大を考慮し中止に〉
- 11日(土) 女性ネットみやぎ、ドキュメンタリー映画『福島は語る』～原発被災者14人の証言～(土井敏邦監督)上映会、せんだいメディアテーク7Fスタジオシアター。480名参加。
- 13日(月) カトリック正義と平和仙台協議会、第6回「いのち」勉強会－福島第一原発事故を風化させない！－、講師：飛田晋秀氏(カメラマン)、元寺小路教会ホール。約60名参加。
- 14日(火) 原子力規制委員会、女川1号機「廃止処置計画」審査3回目。2/13、4回目会合。
- 18日(土) 原発問題住民運動宮城県連絡センター、『女川原発審査と「合格」の問題点』講師：岩井孝氏(日本科学者会議)、県民会館会議室、約60名参加。19日、女川町まちなか交流館。
- 19日(日) 日本基督教団東北教区放射能問題支援対策室いずみ、「第68回こども甲状腺エコー検査 in 仙台市泉区」、寺岡市民センター。協力/放射能と向き合う会 in 泉パークタウン。検診医/溝口由美子医師。33名が受診。(3/14、7/26 コロナ対策して再開、9/12～13、11/14、12/20)
- 21日(火) 女川原発の再稼働を許さない!みやぎアクション、「脱原発をめざす宮城県議の会と市民との意見交換会」、県議会棟1階・第一応接室。議員発議の「県民投票条例案」再提案等の取り組み等について意見交換。県議15名+市民20名参加。
女川原発UPZ住民の会7名、石巻市に実効性のある避難計画の完成前に再稼働へ同意しないことなど3点を求める申入れ書を提出。
- 24日(金) 生活協同組合あいコープみやぎ、大島堅一氏講演会「原発やめると電気料金が上がる? 原発の本当のコスト」、日立システムズホール3階エッグホール。約70名参加。
再稼働阻止全国ネットワーク、女川2号炉の再稼働審査を問う!原子力規制委員会院内ヒアリング集会～被災原発を動かす必要はないぞ～、衆議院第1議員会館2会議室。風の会1名参加。
- 25日(土) 元内閣総理大臣小泉純一郎さんのお話を聴く会第1回実行委員会、15名参加。代表6町議連名。事務局長高野さん。2/24、コロナ禍のため講演会延期を決定。
仙台港の石炭火力発電所建設問題を考える会、公開学習会、仙台市戦災復興記念館。80名参加。

【2月】

- 1日(土) 避難計画を考える会、原子力防災避難計画を考える学習集会「女川原発再稼働と避難計画」講師：上岡直見氏(環境経済研究所代表)、石巻市水産総合振興センター、130名参加。
- 8日(土) 核戦争を防止する宮城医師・歯科医師の会、日本科学者会議宮城支部、医師・科学者が問う原発再稼働－福島原発事故から何を学ぶのか－、フォレスト仙台第6会議室。約100名参加。
放射能から子どもたちを守る栗原ネットワーク『学習交流会』63、「再稼働に向かう女川原発の今」講師：多々良哲さん、栗原市市民活動支援センター。(9/12)
- 12日(水) 女川原発再稼働同意差止仮処分命令申立第2回審尋(非公開)、仙台地裁405号法廷、債権者代表意見陳述・避難計画の実効性がないことのパワポレクチャー。弁護士会館にて、審尋報告会。原告・弁護士市民30名+記者16名参加。3/17第3回。4/28第4回、コロナ対策の為、出廷者制限要請、審尋後報告会は中止。5/27第5回、報告会約40名参加。6/16第6回最終審尋。
- 15日(土) 「風の会2020会員のつどい」、仙台市シルバーセンター5階会議室。16名参加。
- 18日(火) 「船形山のブナを守る会」等大崎地区の11団体、女川町議会に「女川原発2号機の再稼働に反対する請願書」を、「原発の危険から住民の生命と財産を守る会」、女川原発2号機の再稼働に同意しないことを求める請願書」を提出。町商工会が賛成の陳情を提出。
- 19日(水) 県議の会とみやぎアクション等17団体、県知事と安全性検討会へ緊急要望書提出、県庁11階1101会議室。県政記者クラブで記者会見。県議2名を含む16名参加。

20日(木)「生業を返せ、地域を返せ！」福島原発訴訟控訴審第1陣第9回公判最終弁論・結審、仙台高裁。公正な判決を求める署名簿129,304筆を提出。市内デモ→報告集会、仙台市戦災復興記念館、約350名参加。

24日(月) NAZENみやぎ、「原発は直ちに廃絶されなければならないー福島原発事故被災当事者からの訴えー」渡辺瑞也さん(小高赤坂病院院長)、仙台市市民活動サポートセンター。約100名参加。

25日(火) 東北電力、規制委に女川原発1号機の「廃止措置計画認可申請書」の補正書を提出。

26日(水) 規制委、女川原発2号機の新規制基準適合を認める「審査書」を決定。

「女川原発再稼働の是非をみんなで決める県民投票を実現しよう！ 県議と県民の対話集会」、宮城県民会館601号室。実行委主催。県議10名含み約100名参加。

再稼働阻止全国ネットワーク、風の会、「反原発自治体議員・市民連盟」、申入れ書を規制委へ提出。東北電力東京支社抗議行動、応接室で副支社長他2人に3つの申入れ書を提出。

27日(木) 梶山弘志経済産業相、村井知事、須田女川町長、亀山石巻市長に、電話で再稼働への「地元同意(理解)」を要請。

【3月】

1日(日) みやぎアクション、コロナ禍を考慮し3.22集会延期を確認、エルパーク。13名参加。

3日(火) 野党4会派の議員提案による県民投票条例案、自公会派が県議会本会議の冒頭で採決を強行、賛成19、反対38の賛成少数で否決。提案の趣旨説明も討論も質疑も委員会付託も無しで、いきなり採決という前代未聞の暴挙。傍聴席の約130名の県民から怒りと抗議の声。

9日(月) 原子力行政を問い直す宗教者の会、宗教者が核燃料サイクル事業廃止を求める『宗教者核燃裁判』を東京地裁に提訴へ。原告は211名。

11日(水) 山形・幸せの脱原発ウオーキング、東北電力山形支店に「女川原発2号機の再稼働中止要望書」を提出。前日に県政記者クラブで記者会見。

12日(木) 『ふるさとを返せ』福島原発避難者訴訟控訴審仙台高裁判決、「勝訴・原判決を克服」。初の高裁判決、東電の過失を明確に認定、一審より大幅に慰謝料額を上積み。

18日(水) 規制委、女川原発1号機「廃止措置計画」を認可。放射性廃棄物「処分先」は未定。

26日(木) 避難計画を考える会、原子力防災会議(議長内閣総理大臣)に対し、「緊急時の対応」=「避難計画」は、実効性に欠けるとして「了承するな」とする「申入れ書」を送付し、記者会見。

27日(金) 東北電力、女川2号機原子炉建屋1階管理区域内で除染作業をしていた下請け労働者が、内部被ばくしたと発表。内部被ばく発生は初めて、被ばく量は0.05ミリシーベルト。

【4月】

1日(水) 原発事故時対応?拠点として移転新築した、女川原発から北西約7kmの「県女川オフサイトセンター(緊急事態応急対策等拠点施設)」、正式運用開始。

東北電力、送配電部門の法的分離(分社化)を実施。100%子会社の東北電力ネットワーク(従業員数約7500人)が発足。事業持ち株会社の東北電力は、発電・小売部門を担い約4500人。

原発の「新検査制度」が施行。国(規制委)が行なってきた定検(施設定期検査)は廃止され、電力会社が「定期事業者検査」を実施し、「電力会社の一義的責任」に任せる。

12日(日) 「ぶんぶんカフェVol.47」、オンライン会議で開催。7名参加。

15日(水) みやぎアクション3名、東北電力と面談し「原発の保守管理を優先し、安全対策工事は一旦止めるように申し入れ」。

22日(水) 女川町議会原発対策特別委員会、紹介議員の阿部美紀子町議と高野晃議員が再稼働反対請願の提出理由を説明。

28日(火) 脱原発東北電力株主の会、東北電力に株主217名・254,900株で「原子力発電は行わない」等の6議案の株主提案(25年連続)を提出し、県庁で記者会見。3名参加。

30日(木) 東北電力、女川2号機安全対策工事完了時期を2022年度に延期と発表。延期4回目。

【5月】

7日(木) 県議の会、「女川地域の緊急時対応」学習会、議事棟1階会議室。原子力安全対策課伊藤課長が、資料「女川地域の緊急時対応」(概要版と全体版)を説明。市民5名傍聴。

14日(木) みやぎアクション等18団体、東北電力へ『新型コロナウイルス感染拡大防止対策に係る緊急申し入れ』。県へ『コロナ禍での女川2号機再稼働「地元同意」手続き停止を求める申し入れ』。

15日(金) 市内14市民団体、石巻市長に「女川原発2号機の再稼働に同意しないように求める要請書」を提出。コロナ禍のため、代表6人と2人の市議会議員が同席。

- 21日(木) 県、県議会環境福祉常任委員会で「原子力災害時避難経路阻害要因調査事業」の資料を説明、女川原発重大事故時、改善策を講じて、PAZ(5キロ圏)・UPZ(5~30キロ圏)住民の避難時間が、最長で約3日かかるとの試算結果を公表。現状では5日以上要する恐れも。
- 27日(水) 県、大崎市で12日に採取された野生コシアブラから180Bq/kg、栗原市で19日に採取された野生タケノコ3検体から160~420Bq/kg、加美町で18日に採取された野生ワラビから420Bq/kgの放射性セシウムをそれぞれ検出したと発表。
- 28日(木) 15団体、石巻市議会へ「女川原発二号機の再稼働に石巻市議会として同意しないこと」を求める「請願書」と「意見書」を提出。代表者9名、紹介議員3名参加。
避難計画を考える会、原子力防災会議に、「阻害要因調査」の公表を受け、実効性のない広域避難計画を了承しないよう求める「申入れ書」を改めて送付。
- 30日(土) 脱原発全国株主運動交流会、オンライン会議。14名参加。(6/6、6/28)

【6月】

- 7日(日) 大崎市鹿島台の住民組織「念仏山太陽光発電計画に反対する会」、コアフィールズ(埼玉県)中田社長に対し、メガソーラー建設計画の撤回を要請。
- 10日(水) 石巻市議会総務企画委員会、請願団体が趣旨説明。総合防災対策特別委員会と連合審査、継続審議に。「女川原発再稼働ストップ石巻市民行動」、早朝の宣伝とスタンディング、街宣車を使った市内宣伝、戸別チラシ配布等を開始。会期末(6月19日)まで継続。
- 11日(木) 脱原発仙台市民会議、郡和子仙台市長に「東北電力株主総会における仙台市の議決権行使に対する要請書」を提出。秋保町石神町内会も「株主提案に賛同を求める要請書」提出。
- 14日(日) みやぎアクション、「女川原発2号機再稼働を止めよう!作戦会議」、戦災復興記念館5階会議室。リアル+オンラインで約50名参加。
- 15日(月) 宮城県漁協、村井知事と県議会に、福島第一原発の放射性トリチウム処理水の海洋放出に反対するよう求める要望書を提出。
- 22日(月) 原子力防災会議(議長・安倍晋三首相)、女川原発の広域避難計画を「了承」。
- 23日(火) みやぎアクション等25団体、県へ避難計画に関する26項目の「公開質問書」を提出。8名参加。内閣府にも郵送。7/8県・内閣府の「回答拒否」に抗議の記者会見。3名参加。
- 24日(水) 県議の会、「阻害要因調査」学習会、講師に小野寺・松浦両弁護士、原債権者代表。
- 25日(木) 東北電力(株)第96回定時株主総会、本店大会議室。2時間。株主の会、8名参加。コロナ禍のため参加株主は141名(昨年は700名)、株主限定でネットライブ中継。
- 29日(月) 女川町議会原発対策特別委員会、鹿野文永元鹿島台町長と高野博元町議が、再稼働反対の請願趣旨を説明し質疑応答。

【7月】

- 6日(月) 女川原発再稼働同意差止仮処分命令申立、仙台地裁「肩透かし」却下決定。債権者・弁護士、抗議の記者会見。10日、仙台高裁へ「即時抗告」。20日「即時抗告理由書」を提出。
- 8日(水) 住民運動県連絡センター、請願署名推進の学習決起集会。エルパーク仙台セミナーホール1。「『危険な避難計画』の実態」を原伸雄さんが報告。約40名参加。
脱原発仙台市民会議、「東北電力株主総会における仙台市の議決権行使に関する意見交換会」、仙台市役所本庁舎5階第2会議室。小山・猪股・高村市議3名、市民7名参加。
- 14日(火) 規制委、女川原発2号機の新規制基準の「工事計画」に関する適合性審査の初会合。
- 15日(水) みやぎアクション等26団体、県へ「安全性検討会に係る要望書」「住民説明会に係る質問書」を提出。原対課を厳しく追及。自治会館206会議室、14名参加。
- 17日(金) 内閣府、原子力災害時避難円滑化モデル実証事業で、女川原発周辺の塚浜、小屋取両地区の迂回路整備事業を新規採択。総事業費は約5億円、国が全額補助。
- 21日(火) 県議の会、県に、コロナ禍の住民説明会の延期と仙台市等30^{キロ}圏外での開催を申入。
- 25日(土) 避難計画を考える会・みやぎアクション等、「住民説明会へ向けた学習・相談会」、石巻市防災センター多目的ホール、60名参加。
- 27日(月) 15団体、石巻市長へコロナ禍の住民説明会の延期を求める要望書を提出。8名参加。
石巻市議会「連合審査会」、内閣府の担当者が広域避難計画を説明。31日資源エネルギー庁、8月3日規制委員会がそれぞれ説明。7日、女川原発を視察。
船形山のブナを守る会等9団体、伊藤康志大崎市長宛『女川原発二号機の再稼働に反対の意見表明を求める要請書』を提出。

女川から未来を考える会、女川町内に「女川原発の再稼働は許されない」のチラシ 2400 枚を配布。31 日まで延べ 10 名参加。

28 日（火） 東北電力、女川原発 1 号機の廃炉作業に着手したと発表。完了まで 34 年、費用は約 419 億円を想定。放射性廃棄物の処分先は未定。

29 日（水） 「第 24 回女川原発 2 号機安全性検討会」、村井知事と須田女川町長、亀山石巻市長に「報告」を提出。コロナ対策の為の人数制限下で市民 10 名傍聴。マスコミ・TV 約 30 名と多数。

【8 月】

1 日（土） 県、「女川原発に関する住民説明会」を県立支援学校女川高等学園で開催。募集定員 400 人に対し 177 人が参加。コロナ禍下で強行する村井知事に対する批判や、原子力規制庁、内閣府、資源エネルギー庁、東北電力の説明に批判が続出。特に、避難計画は「絵に描いた餅」と実効性に疑問の声が相次いだ。同時ネット中継。2 日、第 2 回、石巻市牡鹿中、44 人が参加。

5 日（水） 原発問題を考える登米市民の会、熊谷盛広登米市長に女川原発再稼働に反対意見を表明するよう求める申入れ書を提出。

株主の会 6 名、東北電力の「説明の場」で 21 名の課長等と討論。東北電力本店会議室。

8 日（土） 第 3 回住民説明会、石巻市総合体育館、143 人参加。9 日、第 4 回、河北総合センタービッグバン、103 人参加。10 日、第 5 回、石巻市立万石浦中学校、66 人参加。

11 日（火） みやぎ福島原発損害賠償請求訴訟（ふるさと喪失訴訟）、仙台地裁判決、古里喪失の被害をみとめ、国の指針を上回る慰謝料（住民 77 人への計 1 億 4458 万円）の支払いを命ずる一方、国の責任を否定し賠償請求は棄却。22 日、東電、仙台高裁に控訴。25 日、住民側も控訴。

15 日（土） 第 39 回「8.15 戦争を阻止する母親の平和行進」、「知ろう・話そう・どうなる？女川原発再稼働」講師岸田清実県議、エルパーク仙台。約 50 名参加。

18 日（火） 第 6 回住民説明会、東松島市コミュニティセンター、143 人参加。避難計画に疑問が相次ぎ、村井知事、追い詰められ、避難訓練に自ら参加する意向を表明。19 日、第 7 回、南三陸町総合体育館、81 人が参加。

19 日（水） 脱原発仙台市民会議と風の会等 11 団体、郡和子仙台市長宛「女川原発 2 号機の再稼働に係る要望書」を提出。市役所本庁舎 2 階危機管理室会議室、15 名参加。

女川町議会原発対策特別委員会、再稼働反対請願 2 件を不採択し、賛成陳情 4 件採択（7：3）。

20 日（木） 岩沼を守る会、市長宛に「女川原発 2 号機の再稼働に同意しないように要請する要望書」を提出。25 日、「再稼働に同意しない意見書の提出を求める陳情書」を市議会議長へ提出。

（9/23 賛成 4：反対 13 で否決）

24 日（月） 県議会石川議長、東京電力に放射性トリチウムを含む処理水を放出しないよう求める 7 項目の要請書を手渡し。大震災復興調査特別委員会、東京電力幹部を参考人招致、批判続出。

27 日（木） 15 団体、石巻市議会議長と石巻市副市長に、「女川原発 2 号機の再稼働に同意しないことを求める署名」8470 筆を携え申入れ。7 名参加。

県保険医協会、医師や歯科医計 163 筆の署名を携え、再稼働に同意しないよう村井知事に求める要望書を県に提出。

【9 月】

2 日（水） 美里町相沢清一町長、町議会一般質問で、女川原発 2 号機再稼働に反対を表明。

4 日（金） 「女川原発再稼働同意差止仮処分抗告審」債権者・弁護団、仙台高裁へ速やかに結論を出すよう求める「準備書面(1)」を提出。

6 日（日） さようなら原発みやぎ県民大集会実行委、講師・神田香織さんが語る「はだしのゲン」から「311」までー私の歩いてきた道ー&蟻塚亮二医師、エルパーク仙台。110 名参加。

NPO きらきら発電、「きらきらコンサート～持続可能な社会をみんなで考えよう！」、せんだいメディアテーク 7 階スタジオシアター。59 名参加。

7 日（月） 女川町議会本会議、再稼働反対請願を不採択し、賛成陳情採択（いずれも 8：3）。

8 日（火） 平和友好祭県実行委、遠藤信哉副知事に女川原発 2 号機再稼働反対の要請書を提出。

10 日（木） みやぎアクション等 26 団体、「女川原発 2 号機の再稼働（設置変更）の事前了解に関する緊急要望書」を県に提出。県議会棟 1 階第一応接室。県議の会 12 名が立会い、17 名参加。

丸森町耕野地区の「反対期成同盟会」「耕野の自然と未来を考える会」の 15 人、メガソーラー建設計画に反対する要望書を遠藤副知事に提出。

12 日（土） 県保険医協会、公開講演「私が大飯原発を止めた理由ー女川原発再稼働はありえな

い」講師：樋口英明氏（元福井地裁裁判長）、法華クラブ仙台ハーモニーホール。約80名参加。

「脱原発をめざす全国首長会議」、女川原発再稼働問題をテーマにオンラインフォーラム。「東北電力女川原発2号機の再稼働問題に関する緊急声明」を発表。約30名参加。

14日（月） 女川町議会本会議、議員発議で、県知事・女川町長宛の女川原発の早期再稼働を望む意見書を可決（8：3）。

15日（火） 栗原ネットワーク、栗原市議会へ女川原発再稼働反対を求める陳情と栗原市長へ要望書を提出。

16日（水） 県議の会、「女川原発再稼働に反対する議会内集会」、県議会棟1F第一応接室。請願&署名を23日に提出することを確認。県議16名、市民14名参加。

17日（木） 石巻市議会総務企画委員会、再稼働を求める陳情を賛成5、反対1で採択。反対の請願は賛成1、反対5で不採択に。

18日（金） 船形山のブナを守る会、森林伐採を伴う大規模風力発電事業誘致の見直しを県に要望。

23日（水） 共同提出53団体、石川県議会議長に『「原発ゼロ」の希望ある未来のため、女川原発の再稼働をしないように求める請願』提出（紹介議員5名）。署名29,139筆（内インターネット署名722筆）も同時に提出（累計で157,724筆）。県民32名参加、県議14名同席。

24日（木） 石巻市議会本会議、「再稼働に同意しないことを求める請願書」、賛成4：反対23：退席1の賛成少数で不採択。「再稼働を求める陳情」賛成23：反対4：退席1で採択。再稼働を求める意見書と避難道路整備の意見書を採択（10/2村井知事に提出）。30数名で傍聴。

県議会全員協議会、原子力規制庁、内閣府、資源エネルギー庁の説明（60分）＋各会派代表質疑（100分）。ゆさみゆき議員（みやぎ県民の声）、三浦一敏議員（共産）、熊谷義彦議員（社民）、菅間進議員（無所属）等が追及。県民35名傍聴。

26日（土） みやぎ県民大集会実行委、「女川原発再稼働を止めよう！宮城県民大集会」仙台市錦町公園。参加人数800人。集会は30分、アピール行進はディスタンスデモの為「長蛇の列」。

県保険医協会女性部第7回公開市民講座「新聞記者がみた福島ー震災から10年を前にしてー」講師：青木美希氏（朝日新聞ジャーナリスト）、フォレスト仙台2階会議室。

27日（日） 「女川原発再稼働ストップ！みやぎ女性議員有志の会」設立集会、県議会と22市町村議会現・元議員62人会員。30人（+5人）参加。エルパーク仙台。早速街頭でアピール行動。

30日（水） 「生業を返せ、地域を返せ！」福島原発訴訟控訴審、仙台高裁、「勝訴」「再び国を断罪」「被害救済前進」の判決。約300人が市内デモ、宮城県民会館大ホールで集会。

東北電力、女川原発2号機の「工事計画」の2回目となる補正書、約4000頁の添付書類を規制委員会に提出。11/30、3回目の補正書、約17,000頁の添付書類を提出。

【10月】

1日（木） 県議会代表質疑で、佐々木功悦県議（県民の声）と天下みゆき県議（共産）が知事の姿勢を批判。「コロナ対策」を理由に本会議場の傍聴を178席中18席に過剰制限、締め出された約30名は1階ロビー等でモニターで傍聴。一般質問で、2日、三浦県議（共産）、6日、石田県議（県民の声）と岸田県議（社民）、7日、小畑県議（県民の声）がそれぞれ県を追及。

4日（日） ピーチヤリ（反核平和自転車リレー）、「避難計画を学ぶ」講師原伸雄さん（避難計画を考える会代表）、塩釜坂総合病院セミナールーム。Zoom参加含め若者中心に40人位。

6日（火） 請願提出53団体、県議会環境福祉委員会委員長渡辺勝幸宛に「女川原発2号機の再稼働に関わる請願の審査に関する要望書」を提出。

8日（木） 岩手県生協連合会と県消費者団体連絡協議会、再稼働を断念するよう求める要請書を東北電力岩手支店に提出。

9日（金） みやぎアクション等26団体、「女川原発2号機の再稼働（設置変更）の事前了解に関する緊急要望書」（9月10日付）への県の「追加説明会しない」という回答（9月25日付）を公開・批判し、「常任委員会での請願審査を迎えるにあたっての『見解』」を公表。

女川原発再稼働に同意しないことを求める請願団体15団体、石巻市議会議長に「請願不採択と議長発言に対する抗議声明」を提出。7名参加。

女川原発UPZ住民の会、UPZ首長会議代表幹事の熊谷盛広登米市長に、避難計画に対する質問と再稼働反対の申入れ書を提出。6名参加。

仙台南健康友の会、シンポジウム「女川原発の再稼働は是か非か？」報告：原伸雄さん（避難計画を考える会）、多々良哲さん。太白区文化センター。42名参加。

- 12日(月) 請願共同提出53団体、渡辺環境福祉委員長と面談し再度3項目を要望。18名参加。
「脱原発仙台市民会議」「避難計画を考える会」「女川原発の再稼働に反対する東松島市民の会」、県庁で記者会見。避難計画の問題点を浮き彫りに。16日、石巻市役所で記者会見。
女性議員有志の会、村井知事宛にアピール文を提出し、再稼働反対を要請。
- 13日(火) 県議会環境福祉委員会、10分弱の審議で、自公会派、強引に再稼働推進の請願を6:3で採択、反対請願を3:6で不採択。県議の会・市民団体、抗議の記者会見、約10人参加。
- 20日(火) 吉村美栄子山形県知事、定例記者会見で、女川原発2号機再稼働に懸念を表明。
- 21日(水) 山形・幸せの脱原発ウォーキング、さようなら原発米沢、さよなら原発酒田・飽海の会、東北電力山形支店等へ「女川原発2号機再稼働中止要望書」提出、宮城県知事に郵送。
- 22日(木) 県議会本会議、「議論不完全燃焼のまま」賛成請願が35:19で可決され、反対請願が19:35で否決。藤倉県議(自民)等が棄権。本会議場は18名の傍聴制限のため、1階ロビーのモニターで80名が傍聴。閉会后、県議会棟4階第2会議室で、県議の会と県民との「抗議集会」。「県議の会」が、村井知事と面会し、「地元同意」慎重判断等3項目を申し入れ。
- 23日(金) 請願共同提出53団体、県知事宛に「女川原発2号機再稼働への『地元同意』判断に係る要望書」提出。署名簿2341筆(累計160,065筆)の2次提出。33名参加。
女性議員有志の会、郡和子仙台市長に再稼働に反対する市民の声を村井知事に伝えるよう要望。市議6人が参加。
「女川原発再稼働同意差止仮処分命令即時抗告審」、仙台高裁「抗告棄却」決定。記者会見コメント「世間の常識が通用しない」。弁護士会館会議室。弁護士、債権者等20名+記者等20名。
- 27日(火) 石巻市須江地区の「環境を守る住民の会」、液体バイオマス発電所建設計画の中止、撤回を求める要望書を県に提出。31日、遊楽館で住民説明会。約100人が出席。
- 28日(水) 避難計画を考える会、「緊急公開質問」を県知事・石巻市長に提出。県・市、11/11付で回答書送付。
仙台地裁、石炭火力発電所「仙台パワーステーション(PS)」運転差し止め訴訟で、住民側の請求を棄却する「不当判決」。原告の明日香壽川氏、個人で控訴。
- 29日(木) 栗原ネットワーク、栗原市長へ市町村長会議に向けて要請文を提出。
舟形山のブナを守る会、風力発電「ウィンドファーム八森山」の誘致見直しを求める要望書を色麻町早坂利悦町長に提出。
- 30日(金) 女性議員有志の会、女川町・石巻市に再稼働反対の住民の声を県に届けるよう求める要望書を提出。12名の議員+市民6名参加。さらに、11/2気仙沼市・南三陸町・東松島市、11/4登米市・栗原市・涌谷町・美里町、11/5色麻町・大衡村・加美町、11/6岩沼市・名取市を訪問。
- 【11月】**
- 1日(日) 県保険医協会公開講演『福島原発事故から学んだこと「戦う市長」が語る～それでも女川原発を再稼働させるのか～』、講師：桜井勝延氏(前南相馬市長)、法華クラブ仙台ハーモニーホール。約90名参加。
- 2日(月) 「いのちと郷土を守る市民の会」等15団体、亀山石巻市長宛に要望書提出。5名参加。
「女川原発再稼働ストップの会」、相沢清一美里町長に要望書を提出。
岩沼を守る会、市長宛「女川原発2号機再稼働問題に関する市町村長会議に係る要望書」提出。
原発ゼロをめざす多賀城の会等4団体、多賀城市副市長と懇談し要望書を提出。10名参加。
あいコープみやぎ、理事長名で県内35市町村の首長全員へ、市町村長会議へ向けた要望書を郵送。県保険医協会、県内各市町村長に要望書を郵送。
30^キ圏内(UPZ)自治体の登米、東松島、涌谷、美里、南三陸の5市町首長会議(懇談会・非公開)、東北電力に対する共同の意見書提出を見送り、意見書をそれぞれ県に提出。
- 4日(水) ふるさと黒川の生命と水を守る会等、富谷市若生市長と会談。市町村長会議で、女川原発再稼働に対し慎重な発言を要望。富谷市会議員2名・市民団体3名が参加。
「原発いらない宮城ツユクサの会」等、県庁前で連続スタンディング・アピール行動、16名参加。5日13名、6日16名参加。
- 5日(木) 東松島市民の会、東松島市長へ要望書を提出。原発ゼロをめざす塩竈地域連絡会等7団体、塩釜市長へ要望書を提出。7名参加。
- 6日(金) 吉村山形知事、「隣接県への影響も十分配慮を」との意見書を村井知事に提出。
- 7日(土) 風の会、女川原発は再稼働すべきではないという「要望書」を31市町村長宛にFAX。

- 8日(日) みやぎアクション等、市役所前交差点で、スタンディング行動。23名参加。
- 9日(月) みやぎアクション等、「市町村長会議」が開催される江陽グランドホテル前でスタンディング・アピール行動。50名参加。市町村長会議では、相沢美里町長が再稼働反対を述べ、猪股加美町長、早坂色麻町長等が批判。約2時間、「熟議」なし。村井知事、三者協議に「一任」。
- 仙台市、脱原発仙台市民会議と風の会等11団体が8月19日に提出した「女川原発2号機の再稼働に係る要望書」に対し、無内容の「回答」を、市町村長会議「当日」に送付。
- 県、安定ヨウ素剤の事前配布で、コロナ対策のため、郵送も併用する方針を表明。全国初。20日、女川町で説明会、配布開始。
- 11日(水) 村井知事、須田女川町長と亀山石巻市長との非公開の「三者会談」後、記者会見し「地元同意」を表明。梶山経産相に電話報告。県内53団体、連名で「村井知事の再稼働同意表明に抗議し撤回を求める声明」を発表。会場の県石巻合同庁舎前で、スタンディング・アピール行動。40名参加。共産党県委員会と党県議団、石巻市内で、同意の即時撤回を求める声明を発表。
- 12日(木) 「生業を返せ、地域を返せ！」福島原発訴訟原告団・弁護団、村井知事の同意表明に抗議する声明を発表。13日、日本消費者連盟、「女川原発の再稼働同意に抗議し、宮城県知事に撤回を求める緊急声明」を発表。
- 18日(水) 村井知事、県庁で樋口康二郎東北電力社長に事前了解の回答文書を手渡し、さらに同日夕方、経済産業省で梶山経産相に、再稼働に同意する回答文書を手渡した。
- 22日(日) みんなの放射線測定室「てととと」9周年イベント、記録集『3.11 みんなのきろくみやぎのきろく』出版報告会、大河原町中央公民館。
- 24日(火) 仙台弁護士会、東北電力・経産省・宮城県に、女川原発2号機再稼働反対と原子力事業からの撤退を求める声明を発表。
- 26日(木) 地球温暖化問題に取り組む学生団体「Fridays for future Sendai Japan」、村井知事に対し再稼働同意の撤回を求める申入れ。
- 27日(金) 環境を守る住民の会、亀山石巻市長に液体バイオマス発電所の建設計画中止を求める要望書を提出。
- 28日(土) さよなら原発 in いしのまき実行委員会、講演会「原発事故避難者の心の傷を考える」講師：蟻塚亮二氏(精神科医師)、石巻市中央公民館大ホール。120名参加。
- 30日(月) みやぎ女性議員有志の会、遠藤副知事に「地元同意」の撤回を申入れ。

【12月】

- 1日(火) 避難計画を考える会／風の会／FoE Japan／原子力規制を監視する市民の会等、内閣府原子力防災・原子力規制庁と「原発避難計画を考える院内集会&政府交渉」、参議院議員会館B107。リアル来場者30名、オンラインで50名参加。
- 6日(日) みやぎ地域・市民電力連絡会年会、基調講演「コロナ禍からの世界のグリーン・リカバリー事情」講師：明日香壽川氏(東北大学教授)、仙台市市民活動サポートセンター、61名参加。
- 「Hope and Actionの会」、女川原発再稼働Q&Aオンライントークライブ～2021年県知事選挙へ向けて～Vol.1、講師/多々良哲さん、ゲスト/佐藤清吾さん(県漁協石巻十三浜支所長)。
- 12日(土) 風の会、公開学習会 vol.16「事故があっても逃げられない!? 屋内退避の被ばくリスクを考える」講師：阪上武さん(原子力規制を監視する市民の会)、報告：原伸雄さん(避難計画を考える会代表)、仙台市中小企業活性化センターセミナーホールB。約40名参加。
- 13日(日) 避難計画を考える会、阪上武さん石巻講演会「屋内退避の被ばくリスクを考える」講師：阪上武さん、報告：原伸雄さん、石巻市防災センター2階多目的ホール。70名参加。
- 17日(木) 秋保地区住民団体「メガソーラー建設に反対する会」、郡和子仙台市長に9,330人分の署名簿を提出。
- 23日(水) 「Fridays for future Sendai Japan」、【女川原発再稼働反対アクション】。
- 24日(木) 村井知事、地元住民・避難住民の苦しみも聞くこともなく、過酷事故を起し廃炉になった福島第一原発構内だけをアリバイ的に2時間弱の初視察。
- 25日(金) 「脱原発をめざす首長会議」、三上元世話人(前静岡県湖西市長)等が県庁を訪れ、「県知事の同意表明の撤回を求める」申し入れ。鹿野元鹿島台町長等5人の県内元首長も同席。

●汚染廃棄物「焼却」をめぐる動き

- 【1月】19日（日） 放射能汚染廃棄物の焼却に反対する仙南の会、第1回課題別交流・学習会「放射能汚染による内部被曝とその怖さ」講師：岡山博氏（元仙台赤十字病院第2呼吸器科部長、元東北大学臨床教授）、大河原駅前まちづくりオーガ2Fイベントホール、26名参加。
- 20日（月） 仙南の会9名、仙南地域広域行政事務組合に回答要求申し入れ、事務組合3F研修室。台風19号の災害ゴミの焼却前に「放射線量の測定をしているのか」の問いに「測定していない」「測定には金がかかる」と逃げの回答に終始。
- 21日（火） 大崎市と大崎地域広域行政事務組合、岩出山池月地区（住民約30人参加）で、25日には大崎市役所で本焼却に関する説明会を開催（約50人参加）。焼却は中止すべき！の意見。
- 27日（月） 放射能汚染廃棄物「一斉焼却」に反対する宮城県民連絡会と「大崎耕土を放射能汚染させない連絡会」、大崎市鹿島台地区の汚染廃棄物の保管状況を視察。7人が参加。
- 【2月】9日（日） 涌谷町と美里町、それぞれ本焼却に関する住民説明会。涌谷町民医療福祉センターに住民約25人、美里町駅東地域交流センターに住民約30人参加。疑問や反対する意見。
- 12日（水） 放射能汚染廃棄物の焼却差止め大崎住民訴訟第8回公判 「焼却炉からの放射能の漏れは？内部被ばくの機序・危険性」、仙台地裁101号法廷、70名が傍聴。公金支出差止から損害賠償請求に訴えを変更。報告集会、仙台市戦災復興記念館4階第二会議室。
- 29日（土） 大崎連絡会、住民意見交換会、大崎市図書館（研修室1・2）。裁判について現在の現状・今後の方向、報告。約50名参加。
- 仙南の会、第2回自主学習会、大河原町中央公民館2F研修室。
- 【3月】25日（水） 大崎連絡会、本焼却で色麻町早坂町長と加美町猪股町長と面談。26日、涌谷の市民団体3人も加わり、涌谷町遠藤町長と面談。美里町長は出張中で、書類の手渡しのみ。
- 【4月】21日（火） 大崎連絡会、大崎市を訪問、本焼却の進捗状況をヒアリング。
- 【6月】18日（木） 県民連絡会、環境省東北事務所に、要望書を提出。2名参加。
- 27日（土） 大崎連絡会、市民意見交換会、大崎市図書館。
- 29日（月） 大崎連絡会、大崎市に本焼却中止申し入れ書を提出。
- 大河原の会、斎大河原町長に焼却中止を求める町民ら8083名分の署名を提出。
- 【7月】12日（日） 大崎連絡会、「放射能汚染廃棄物の焼却計画に反対する大崎地域住民の集い」、古川教育会館。自粛モードの中、35名が参加。『[抗議文]放射能汚染廃棄物の焼却処分に反対し、本焼却計画の中止を求めます』を採択。13日、大崎市環境保全課と協議。
- 15日（水） 大崎市と大崎地域広域行政事務組合、本焼却開始。大崎連絡会など、即時中止を求め、3か所のクリーンセンター前で、16日は三本木の最終処分場前で、横断幕を掲げて、歩道でのアピールと各施設管理者に抗議文手渡しの抗議行動。
- 【8月】28日（金） 大河原の会、斎大河原町長の7月17日付け回答を不服として、大河原町役場2F会議室において、藤田副町長に対し再申し入れ書を提出。議員2名を含む6名が参加。
- 【9月】23日（水） 大崎住民訴訟第9回公判、仙台地裁。「大崎住民訴訟の公正な審議と判決を求める署名」2006筆を「支援する会」が仙台地裁に提出。終了後、弁護士会館で報告会。
- 28日（月） 「桜の目焼却施設での放射能汚染農林業系廃棄物の本焼却を考える会」など4住民組織、大崎地域広域行政事務組合議会に、焼却中止を求める請願書計4通を提出。
- 【10月】25日（日） 大崎連絡会、「放射能汚染廃棄物の焼却を止めよう！大崎耕土住民の集い」、古川教育会館ホール。講演：大沼淳一氏「土壌放射能汚染と内部被曝リスクについて～放射能汚染物焼却強行下で何に注意すべきか～」。集会宣言採択、市内デモ行進。64名参加。
- 【11月】18日（水） 仙南の会、仙南事務組合に本焼却再開中止を求める申し入れ書提出。
- 【12月】2日（水） 大崎住民訴訟第10回公判、仙台地裁。終了後、仙台市戦災復興記念館2階ホールで報告会、40名参加。
- 20日（日） 大崎住民訴訟を支援する会、「焼却炉の排ガス測定法を学ぶ」学習会を開催。